

(単位:千円)

$$\text{実質赤字比率} = \frac{\text{一般会計等の実質赤字額①}}{\text{標準財政規模}} \Rightarrow \frac{2,682,529}{19,273,771} = \text{実質黒字のため実質赤字比率なし}$$

黒字比率 13.91 %

一般会計等の実質赤字額

会計名	歳入総額	歳出総額	歳入歳出差引額		翌年度に繰り越すべき財源	実質収支額
	ア	イ	アーイ	ウ		ウーエ
一般会計	34,536,161	31,153,246	3,382,915		700,386	2,682,529
					合計	2,682,529 ①

$$\text{連結実質赤字額} = \frac{\text{連結実質赤字額①+②+③+④}}{\text{標準財政規模}} \Rightarrow \frac{4,358,484}{19,273,771} = \text{連結実質黒字のため連結実質赤字比率なし}$$

黒字比率 22.61 %

一般会計等以外の特別会計のうち公営企業以外の特別会計

会計名	歳入総額	歳出総額	歳入歳出差引額		翌年度に繰り越すべき財源	実質収支額
	ア	イ	アーイ	ウ		ウーエ
国民健康保険特別会計	6,475,863	6,372,898	102,965		0	102,965
介護保険特別会計	3,305,781	3,027,090	278,691		0	278,691
老人保健特別会計	64,851	61,863	2,988		0	2,988
後期高齢者医療特別会計	448,577	430,650	17,927		0	17,927
					合計	402,571 ②

公営企業会計(法非適用)

会計名	歳入総額	歳出総額	算入される地方債の額	翌年度に繰り越すべき財源	アーイーウ	解消可能資金不足額	資金不足・剰余額	事業の規模	資金不足比率
	ア	イ			アーイーウーエ				
下水道事業特別会計	1,374,738	1,296,048	0	8,760	69,930	0	69,930	1,031,625	—
					合計	69,930 ③			

公営企業会計(法適用)

会計名	流動資産	流動負債	算入される地方債の額	アーイーウ	解消可能資金不足額	資金不足・剰余額	事業の規模	資金不足比率
	ア	イ						
水道事業会計	1,266,967	63,513	0	1,203,454	0	1,203,454	455,197	—
					合計	1,203,454 ④		

$$\text{実質公債費比率} = \frac{(\text{地方債の元利償還金①} + \text{準元利償還金②}) - (\text{特定財源③} + \text{元利償還金・準元利償還金に係る普通交付税算入額④})}{\text{標準財政規模⑤} - \text{元利償還金・準元利償還金に係る普通交付税算入額④}}$$

平成19年度	$\frac{(3,483,708 + 3,294,946) - (779,468 + 2,225,947)}{17,850,267 - 2,225,947}$	=	0.2414978
平成20年度	$\frac{(3,468,822 + 1,880,330) - (898,305 + 2,290,204)}{18,680,598 - 2,290,204}$	=	0.1318237
平成21年度	$\frac{(3,250,669 + 1,889,898) - (838,578 + 2,324,941)}{19,273,771 - 2,324,941}$	=	0.1166481

実質公債費比率
(3力年平均)
0.1633

		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
①地方債の元利償還金	地方債の元利償還金	ア	3,725,036	3,657,560	3,276,584	
	うち繰上償還に係るもの	イ	241,328	188,738	25,915	
		ア-イ	3,483,708	3,468,822	3,250,669	①
②準元利償還金	公営企業の事業債償還に充てたと認められる繰入金	ウ	348,106	335,319	300,491	
	一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる負担金	エ	642,566	609,374	610,230	
	公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	オ	2,304,274	935,637	979,177	
		ウ+エ+オ	3,294,946	1,880,330	1,889,898	②
③特定財源	都市計画税充当可能額	カ	779,468	898,305	838,578	③
④普通交付税算入額	地方債の元利償還金に係るもの	キ	1,724,114	1,801,207	1,781,906	
	準元利償還金に係るもの	ク	501,833	488,997	543,035	
		キ+ク	2,225,947	2,290,204	2,324,941	④
⑤標準財政規模	標準税収入額	ケ	15,163,286	15,961,677	16,046,908	
	普通交付税額	コ	1,827,561	1,913,948	1,977,523	
	臨時財政対策債発行可能額	サ	859,420	804,973	1,249,340	
		ケ+コ+サ	17,850,267	18,680,598	19,273,771	⑤

$$\text{将来負担比率} = \frac{\text{将来負担額①} - (\text{充当可能基金額②} + \text{特定財源見込額③} + \text{地方債現在高等に係る普通交付税算入見込額④})}{\text{標準財政規模⑤} - \text{元利償還金・準元利償還金に係る普通交付税算入額⑥}}$$



$$\frac{52,493,104 - (8,385,400 + 7,102,818 + 20,153,049)}{19,273,771 - 2,324,941} \times 100 = 99.4 \%$$

将来負担率

		平成21年度	
①将来負担額	一般会計等の年度末地方債現在高	ア	26,821,748
	債務負担行為に基づく支出予定額	イ	15,148,269
	公営企業の事業債元金償還に充てる一般会計等からの繰入見込額	ウ	2,481,980
	一部事務組合等の地方債の元金償還に充てる負担金等見込額	エ	4,690,100
	退職手当支給予定額のうち一般会計等の負担見込額	オ	3,349,264
	地方道路公社の負債額	カ	0
	土地開発公社の負債額	キ	0
	第三セクター等に対する損失補償債務等に係る負担見込額	ク	1,743
	連結実質赤字額	ケ	0
	組合等連結実質赤字額相当額のうち一般会計等の負担見込額	コ	0
		ア+イ+ウ+エ+オ+カ+キ+ク+ケ+コ	52,493,104
②充当可能基金額		8,385,400	②
③特定財源見込額		7,102,818	③
④普通交付税算入見込額		20,153,049	④
⑤標準財政規模	標準税収入額	ケ	16,046,908
	普通交付税額	コ	1,977,523
	臨時財政対策債発行可能額	サ	1,249,340
	ケ+コ+サ	19,273,771	⑤
⑥普通交付税算入額		2,324,941	⑥